

金権政治の温床になり有権者の支持を損なう要因にもなった。ナジブ氏が有権者の支持の回復と党内支持の維持を両立するには、金権政治を促進した役員選挙制度を改正すると同時に、末端党员から直接的に支持を調達する新たな指導スタイルを確立する必要がある。ナジブ氏がUMNO 党员に対して今後どのようなアプローチをとるのか注目したい。

■2009.4.11 中村正志(アジア経済研究所)

ナジブ首相の誓い―“One Malaysia. People First. Performance Now.”

4月3日に、ナジブ・ラザク(Dato' Sri Mohd Najib bin Tun Hj Abd Razak)が第6代マレーシア首相に就任した。イスタナ・ヌガラで行われた首相就任式において同氏は、アブドゥラ前首相夫妻やマハティール元首相夫妻、閣僚など319人の来賓が見守る中、ミザン・ザイナル・アビディン国王の前で首相就任を宣誓した。

その日の夜、ナジブ首相は約8分間の就任演説を行い、その模様が国営テレビ局RTM1チャンネルで全国に放送された。演説の中でナジブ首相は、新しいマレーシアを作り上げていくことを掲げた。スローガンは、“One Malaysia. People First. Performance Now.”。同首相は、この中で、新たなアプローチで人々と向き合う政府、すなわち、人々のことを第一に考え、きちんと仕事を遂行してその結果を重視し、多様なコミュニティに手を差し伸べる政府を作り上げていくことを強調した。また、様々な方面と協議を行い、地位や背景を問わず優秀な人材を広くリクルートし、政府の指導力と優先事項を立て直して強力な指導力を提供し、マレーシアがあらゆる潜在力を発揮できるよう導き、世界的な経済危機という難局を乗り切っていくとの決意を示した。

政府に対して批判や異論を表明しうる言論空間がアブドゥラ前首相時代に拡大したと言われている。これに対して、ナジブ首相の下ではそうした言論空間が縮小するのではないかという見方がある。こうした見方に対抗するような発表を、ナジブ首相は演説の中に盛り込んだ。真の脅威に備えつつ、平和と法と秩序の維持を託されたことに対する市民の信頼を拡大していくとして、野党である汎マレーシア・イスラム党(Parti Islam SeMalaysia : PAS)と人民公正党(Parti Keadilan Rakyat:PKR)の機関誌に対する3ヶ月間の発行停止命令を解除し、国内治安法の被勾留者13人を釈放し、国内治安法を全般的に見直すとして発表した。ナジブ首相の演説の直後、サイド・ハミド内務大臣は、ヒンドラフのメンバー5人とダレル・イスラム関係者5人、外国人3人が釈放の対象であることを明らかにした(なお2008年12月の時点で、国内治安法に基づく被勾留者数は46人)。

2008年3月の総選挙以来、与党連合の国民戦線(Barisan Nasional:BN)に対して変化を求める声が高まっている。またその声は、BNの中核政党である統一マレー人国民組織(United Malays National Organisation:UMNO)に直接投げかけられることが多くなっている。ブリタ・ハリアン紙のマンジャ・イスマイル総編集長は、UMNOが人々の信頼を回復するには、公平・公正で金銭の絡まないクリーンな党内選挙システムを構築しなければならないと指摘する。スター紙のウォン・チュンワイ総編集長は、新経済政策(New Economic Policy:NEP)の本来の精神は貧困の撲滅と社会再編であり、UMNO関係者を金持ちにするためでも、ブミプトラが200万リンギの家やゴルフの会員権を安く購入するためでもないとし、ナジブ氏に対しUMNOの変革を

求める。星洲日報の社説は、UMNO はここ数年
来、職権乱用、汚職、金銭政治など人々にマイ
ナスのイメージを与え続け、そのイメージを一掃
できない限り、BN が支持を回復することは難し
いと述べる。

マレーシアの人々は、ナジブ首相が演説で誓
った事柄を心に留め、それらが十分に履行され
ているか否かを日頃からチェックし、審判を下す
機会の日を備えるのであろう。

ナジブ首相の経歴

1953年7月23日にパハン州クアラリピスに生
れ、現在 55 歳。著名な政治家を送り出してきた
名門一族の出身である。父親は第 2 代首相の故
アブドゥル・ラザク・フセイン(在任期間:1970年9
月~1976年1月)で、民族間の経済的格差の解
消を目的とした新経済計画(New Economic
Policy:NEP)を導入したことで知られている。ま
た第 3 代首相の故フセイン・オン(在任期間:
1976年1月~1981年7月)はおじに当たり、そ
の息子で現在内務大臣を務めるヒシャムディン・
フセイン氏はいとこにあたる。

クアラルンプールのセント・ジョーンズ学院で
学んだあとイギリスに留学し、マルバーン・ボーイ
ズ・カレッジを経てノッティンガム大学に入学し、
工業経済学で学士号を得た。1974年にマレー
シアに帰国し、マレーシア中央銀行やペトロナス
社に勤務したが、父親が 1976年1月に白血病
で急逝したことがきっかけで政界入りした。父親
の死去により空席となったプカン国会下院選挙
区議員の補選に、弱冠 22 歳で出馬して当選し、
マレーシア史上最年少の国会議員となった。ま
た国会議員 1 年目でエネルギー・通信・郵政副
大臣に任命され、その後も教育副大臣や財務副
大臣を務めた。1982年には、29歳の若さでパハ

ン州首席大臣に就任。1986年以降は大臣職を
歴任し、文化・青年・スポーツ大臣(1986年~
1991年)、国防大臣(1991年~1995年、1999
年~2009年)、教育大臣(1995年~1999年)
などを務め、2004年1月に副首相兼国防大臣
に就任した(2008年9月に国防大臣兼任をはず
れ、財務大臣を兼任)。

ナジブ首相の個人ブログ:

<http://www.1malaysia.com.my/>

英語、マレー語、華語の 3 言語で設置。ナジ
ブ首相の動静や政治的ビジョン、演説、経歴な
どに触れることができる。

■2009.4.12 篠崎香織(北九州市立大学外国
語学部)

ナジブ首相の「1つのマレーシア」

首相に就任して「1つのマレーシア」を掲げた
ナジブが真っ先に行ったことは、町に出てマレー
人、華人、インド人とそれぞれ会うことだった。翌
日の地元紙には、町で人々と握手し、談笑して
いるナジブの様子を示す 3 枚の写真が掲載され
た。ここに象徴的に表れているのは、マレーシア
をマレー人、華人、インド人の 3 つの民族の連合
体と見て、政治経済を含む社会生活のほとんど
すべての面を民族ごとに担当する「民族の政治」
の考え方だ。「民族の政治」への批判が高まり、
民族別でない社会を求めた野党連合・人民協約
が今年の総選挙で支持を伸ばしていたが、それ
に対してナジブは「民族の政治」をより強化する
というメッセージを発したということになる。

ナジブ率いる与党連合・国民戦線は、国民か
らの支持を回復し、政権基盤を立て直すことが
できるのか。その実現より前に、意外にも早い時期
にナジブが政権を明け渡すことになるとしたら、
その鍵はナジブが首相就任直後に行った 2 つの